

## 平成26年度授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	社会福祉入門(Introduction to Social Welfare)		授業コード	E022851
担当教員名	野中 義光		科目ナンバリングコード	E10104
配当学年	1	開講期	後期	
必修・選択区分	選択	単位数	2	
履修上の注意または履修条件	卒業条件に必要な科目になりますので、必ず履修を行ってください。			
受講心得	聴くこと、見ること、調べること、そして、真剣に考え取り組むことを心がけてください。			
教科書				
参考文献及び指定図書				
関連科目	社会福祉原論、高齢者福祉論、障害者福祉論、児童福祉論、社会福祉援助技術論、社会保障論、公的扶助論、地域福祉論、社会福祉援助技術現場実習指導、社会福祉援助技術演習、社会福祉援助技術現場実習など			

授業の目的	急速に進行する少子高齢化により福祉を取り巻く環境も大きく変化するとともに福祉に対する関心やニーズも増大し、かつ多様化しています。社会福祉の対象が普遍化し、今日ではすべての人を対象に、人間らしい生活ができることをめざしています。社会福祉の全体像を理解し、福祉活動への参加のきっかけになることを期待しています。
授業の概要	授業の目的と同じ。

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
<b>第1週：オリエンテーション</b> 本講義の目的、到達目標及び授業計画等について説明します。	配布資料
<b>第2週：私たちの生活と社会福祉</b> 私たちの生活は歴史の中で大きく変化しています。日本人の生活も高度経済成長の過程で大きく変質し、核家族化の進行、少子高齢社会の到来によって、福祉は普遍化しすべての人々の生活課題となっています。私たちの生活と社会福祉との関連について学習します。	配布資料
<b>第3週：社会福祉の考え方</b> 社会福祉は人間の社会生活上に発生する困難や障害を軽減緩和し、人間らしい生活をおくることができることをめざすさまざまな活動の総体といわれています。社会福祉の言葉の由来と変化、社会福祉の基本的理念と定義について学習します。	配布資料
<b>第4週：西欧における社会福祉の歴史</b> 西欧における社会福祉生成の前身である慈善事業や博愛事業、社会事業などを通じて、現在の社会福祉への発展した過程、各国の社会福祉の特殊性を紹介し、我が国の社会福祉への影響について考えます。	配布資料
<b>第5週：我が国の社会福祉の歴史</b> 社会事業の成立以前から行われていたいろいろな慈善救済活動の経過をたどりながら、明治以降の社会事業、社会福祉の考え方やその背景、特徴等を明らかにし、今日の社会福祉へと発展した歴史を学習します。	配布資料
<b>第6週：社会福祉の法制度</b> 我が国の社会福祉は、憲法第25条の生存権保障の理念を受けて福祉関係法が整備されています。その根幹となっている社会福祉法の目的や理念、内容等について説明し、生活保護法、児童福祉法、身体障害者福祉法、知的障害者福祉法、老人福祉法、母子及び寡婦福祉法など福祉六法との関連を学習します。	配布資料
<b>第7週：社会福祉の分野(1)</b> 社会福祉の領域のうち、低所得層の福祉について、その理念、歴史、現行の施策のあり方等について具体的な事例を取りあげながら学習します。	配布資料
<b>第8週：社会福祉の分野(2)</b> 社会福祉の領域のうち、児童の福祉について、その理念、歴史、現行の施策のあり方等について具体的な事例を取りあげながら学習します。	配布資料

<b>第9週：社会福祉の分野(3)</b>		
社会福祉の領域のうち、障害者の福祉について、その理念、歴史、現行の施策のあり方等について具体的な事例を取りあげながら学習します。		配布資料
<b>第10週：社会福祉の分野(4)</b>		
社会福祉の領域のうち、高齢者の福祉についてその理念、歴史、現行の施策のあり方等について具体的な事例を取りあげながら学習します。		配布資料
<b>第11週：社会福祉の分野(5)</b>		
社会保障制度についてその理念、歴史、現行の施策のあり方等について具体的な事例を取りあげながら学習します。		配布資料
<b>第12週：社会福祉の実施体制</b>		
社会福祉施設は社会福祉事業を行う重要な拠点です。施設はそれぞれの関係法に基づいて設置されているが、社会福祉施設の種類と体系、現状と課題等について学習します。		配布資料
<b>第13週：社会福祉の財政</b>		
社会福祉の運営に当たっては行政が大きな役割を果たしています。社会福祉行政を担当する国、都道府県、市町村の役割分担や社会福祉専門実施機関の概要、財政等社会福祉の行財政について学習します。		配布資料
<b>第14週：社会福祉の担い手</b>		
多様な生活課題や福祉ニーズに取り組むためには、高度な知識と技術を持って従事する専門職のほかに福祉サービスの提供に協力している地域住民やボランティア等の参加が不可欠です。社会福祉専門職の資格制度と研修体系、さらに一般の人々を対象とした社会福祉理解のための福祉教育について学習します。		配布資料
<b>第15週：まとめ</b>		
全体を振り返り、まとめを行います。		配布資料
<b>第16週：期末試験</b>		
<b>授業の運営方法</b>	(1)授業の形式	「講義形式」
	(2)複数担当の場合の方式	
	(3)アクティブ・ラーニング	
<b>備考</b>		

<b>○単位を修得するために達成すべき到達目標</b>	
<b>【関心・意欲・態度】</b>	
<b>【知識・理解】</b>	日本における社会福祉の制度や政策について理解している。
<b>【技能・表現・コミュニケーション】</b>	イギリス及びわが国における社会福祉の発展過程について説明することが出来る。
<b>【思考・判断・創造】</b>	今日の社会保障や社会福祉について考察することが出来る。

○成績評価基準(合計100点)			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等 (テスト)	レポート・作品等 (提出物)	発表・その他 (無形成果)	
<b>【関心・意欲・態度】</b> ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。				
<b>【知識・理解】</b> ※「専門能力<知識の獲得>」を含む。	50点			
<b>【技能・表現・コミュニケーション】</b> ※「専門能力<知識の活用>」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。	25点			
<b>【思考・判断・創造】</b> ※「考え抜く力」を含む。	25点			
<b>(「人間力」について)</b>				
※以上の観点に、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。				

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等 (提出物)	
発表・その他 (無形成果)	